

5 - 3 東海地方における地震活動の変化 (1989年11月～1994年10月)
On the Change of Seismic Activity in the Tokai District
 (November, 1989-October, 1994)

気象庁地震予知情報課
 Earthquake Prediction Information Division
 Japan Meteorological Agency

第1図は東海地方における最近5年間のマグニチュードが3.0以上の地震活動の変化を示したものである。また、第2図には、同じく最近10年間についての地震活動の変化を示した。この図に示したA、B、C3領域の主な地震活動の変化は次のとおりである。

A領域：この領域の北半分の内陸部では地震は定常的に発生している。南半分の大部分が海域となっている領域では、最近活動レベルがやや低下している。

B領域：1988年後半から1989年前半にかけて地震活動が一時空白化したが、これ以降、地震の発生数は平常状態に戻った。1989年7月以降、本年11月9日までに発生した地震は60個^{*1)}で平均すると月1個弱の割合である。しかし発生場所が静岡市から焼津市付近の内陸部に片寄り、南半分の海域では1900年末から1993年9月まで地震が発生が見られない期間が続くなど、やや静かな状態にある。

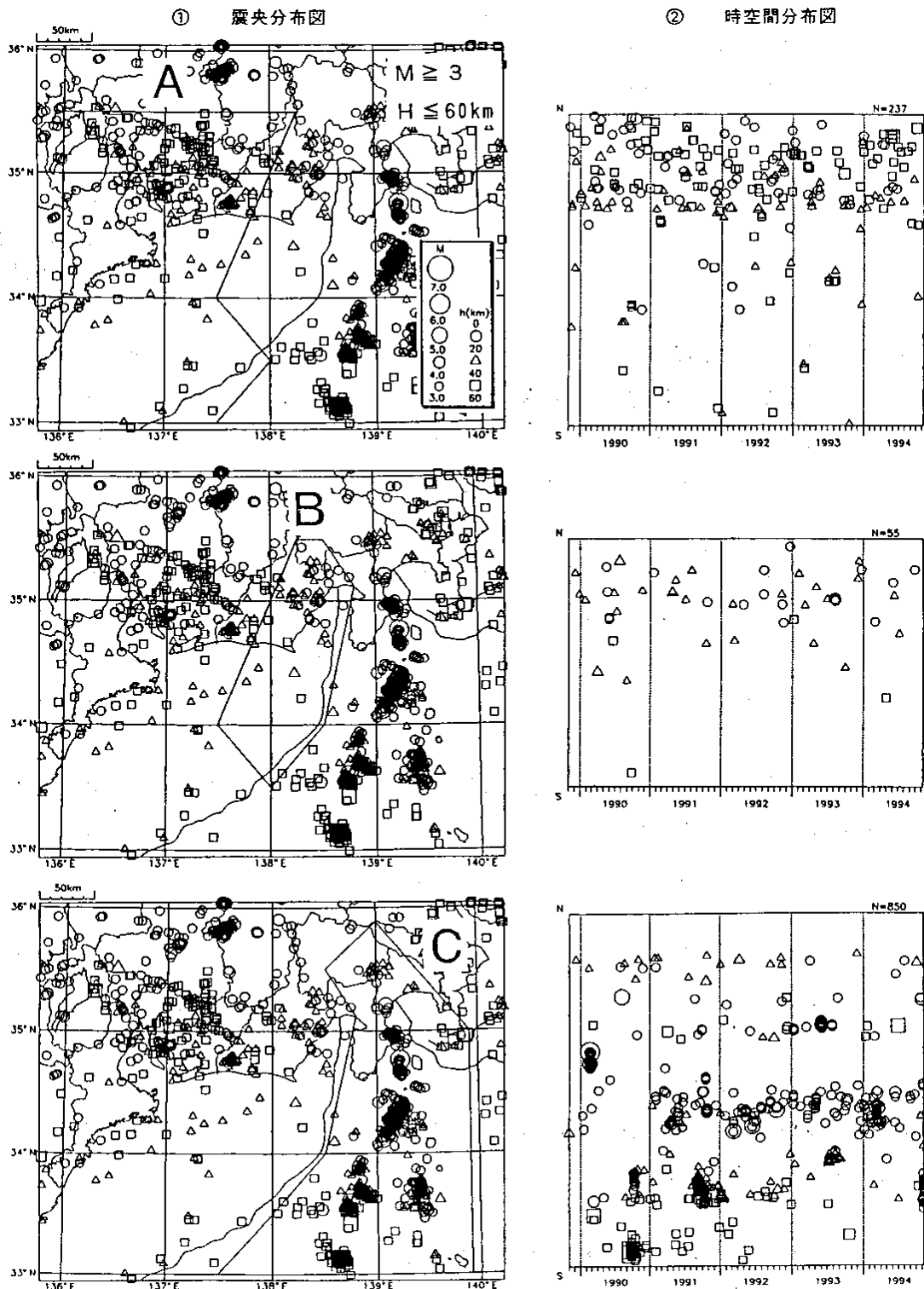
C領域：1900年2月20日、伊豆大島近海のM6.5の地震以降、伊豆半島東方沖や伊豆大島近海では活動レベルが低下した。本年2月末、伊豆半島東方沖で小規模な群発地震活動があったが短期間で終わり、その後はまた静穏になった。これに対し、新島付近から南の海域では、東海道はるか沖のM6.6の地震(1900年9月24日)の発生以降、三宅島近海の群発地震(1900年10月、1994年11月)、新島から神津島近海にかけての地震活動(1991年4月～10月、1992年3、6、10月、1993年10、12月、1994年3月～4月)など、断続的に集中した活動が見られる(本巻別項参照)。

*1) これら60個の地震は次のとおり。

1989年7月から1994年4月までの56地震については、連絡会報第44巻～52巻「東海地方における地震活動の変化」の末尾に掲載。

No	年	月	日	時	分	M	H	I	地域名	(注) H:深さ(km)
57	1994	6	5	18	40	3.1	10.9		静岡県東部	I:最大震度
58		6	11	07	21	3.7	29.7		静岡県中部	
59		7	7	15	56	3.1	34.1		駿河湾南部	
60		9	27	19	24	3.0	17.3		静岡県東部	

(No.60は暫定)



暫定 (気象庁、東京大学、名古屋大学、防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 東海地方のA, B, C領域における5年間の地震活動

(1989年11月1日~1994年11月9日; M3.0以上)

: 震央分布 : 時空間分布 : M - T図 : 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in A, B and C regions in the Tokai District for 5 years

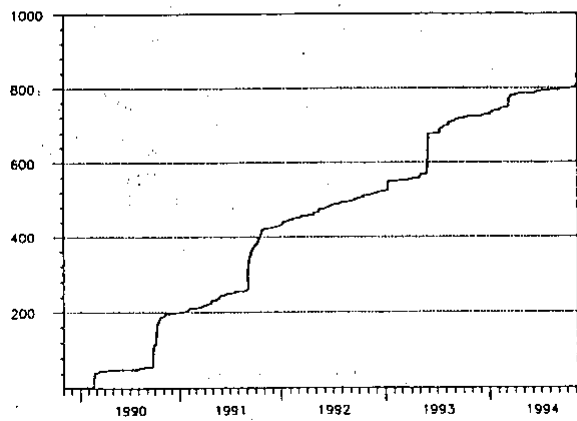
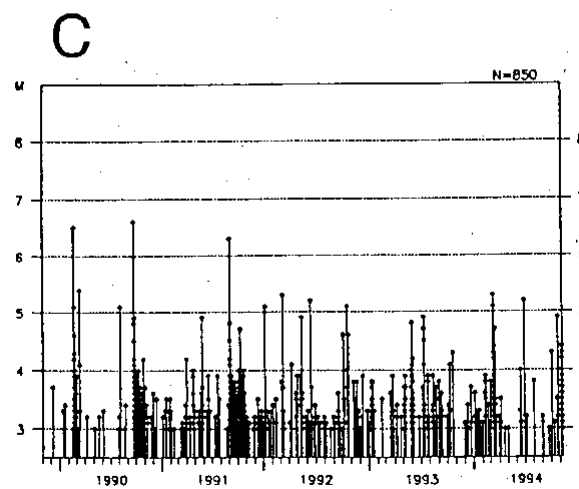
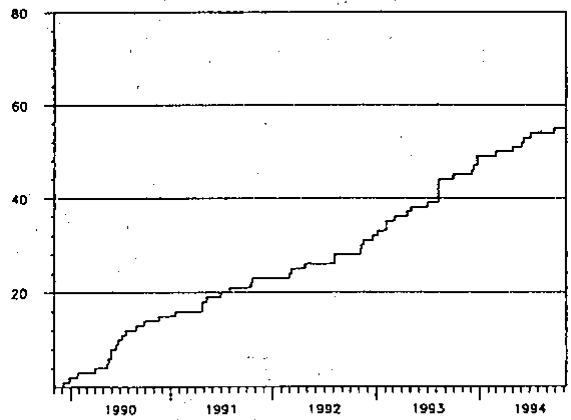
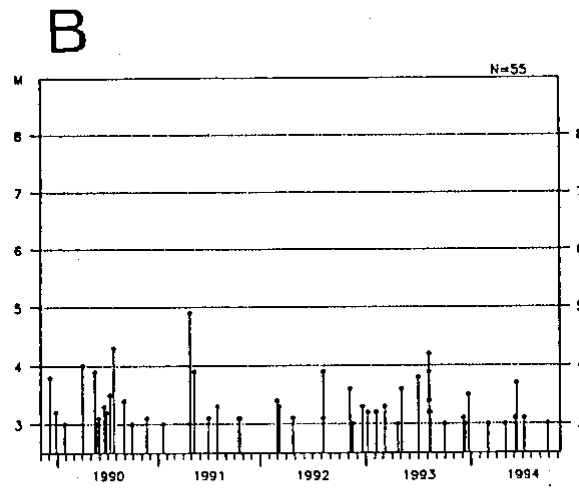
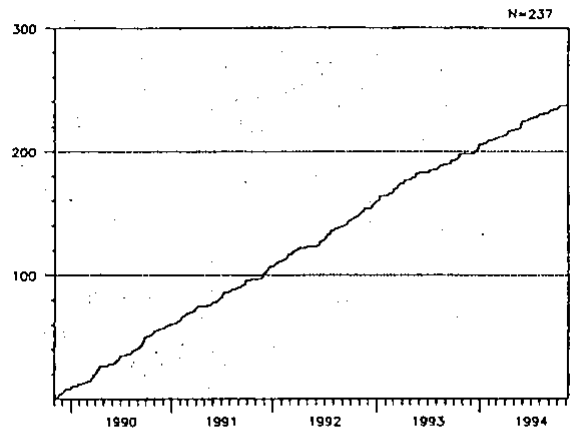
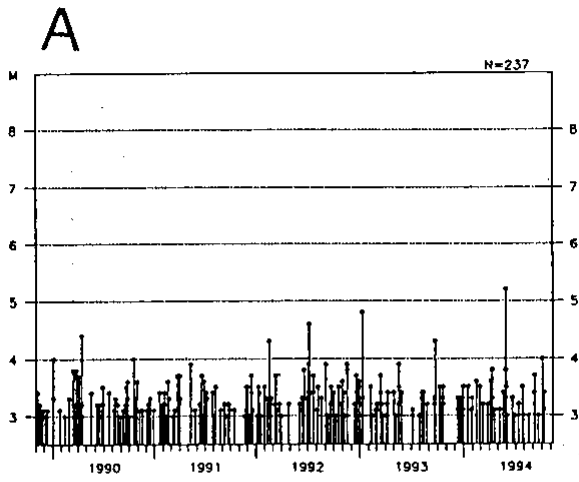
(November 1, 1989-November 9, 1994; M 3.0).

: Epicentral distribution, : Space - time plot, : M-T diagram,

: Cumulative number of earthquakes.

③ M-T図

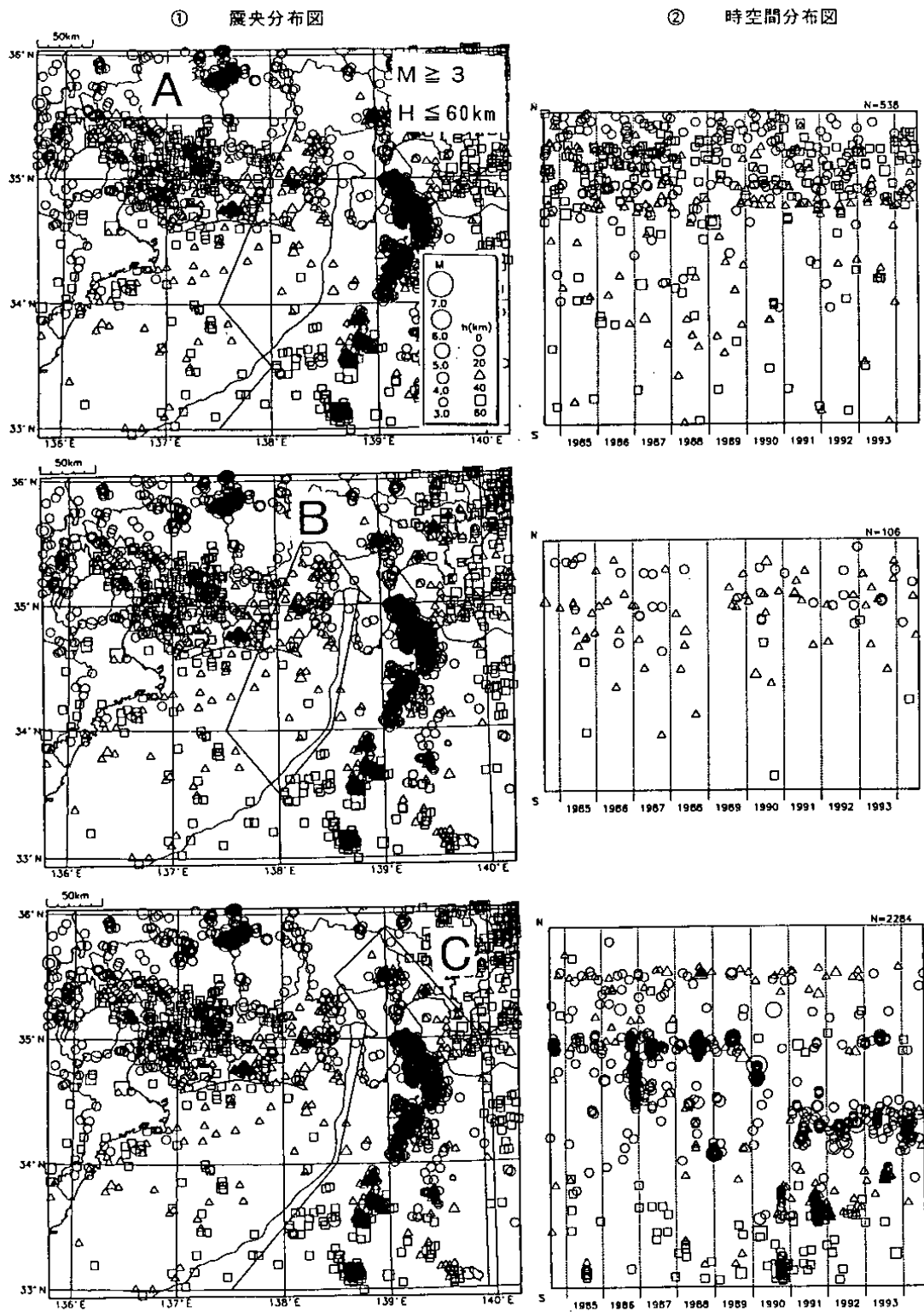
④ 回数積算図



1989 11 01 00:00 -- 1994 11 09 24:00

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



暫定 (気象庁、東京大学、名古屋大学、防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 東海地方のA, B, C領域における10年間の地震活動

(1984年8月1日~1994年8月4日; M3.0以上)

: 震央分布 : 時空間分布 : M-T図 : 地震回数積算図

Fig. 2 Seismic activity in A, B and C regions in the Tokai District for 10 years

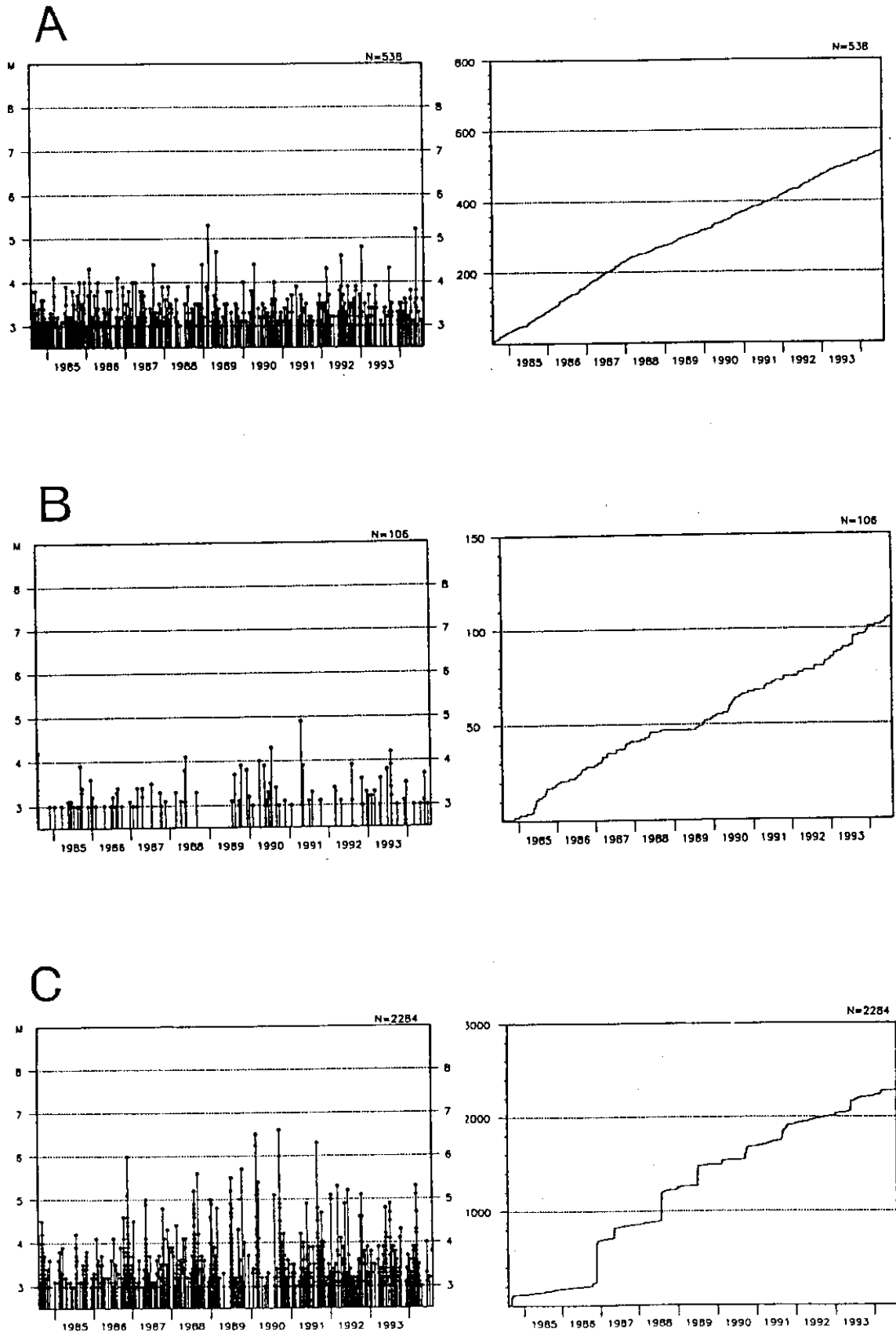
(August 1, 1984-August 4, 1994; M 3.0).

: Epicentral distribution, : Space-time plot, : M-T diagram,

: Cumulative number of earthquakes.

③ M-T図

④ 回数積算図



第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)